

Local Area News

持続可能な社会に向けて 必要な考え方を学ぶ

東毛環境サービス事業(協)

2月26日、太田市・太田ナウリゾートホテルにおいて、SDGsに関する講習会を開催。講師は環境カウンセラーの富所哲平氏。

富所氏は、今のままの消費では、地球10個分以上の資源が不足する計算と説明。SDGsは、この状況に対し世界中で画一的な取組みが不可能な中、各自ができることを考えてやっていこうというものであると解説した。そして、日本に昔からある「三方良し」、「和を以て貴しとなす」、「お互い様」など、SDGsに即した考え方を挙げ、決して難しい取組みではないと述べた。

さらに、自分で考えて正しい選択をするためには、知らないことを知って選択肢を増やす必要があると持論を展開。特に、物事の因果関係や全体像を知ること、モチベーションの向上や本質を見失わないことにもつながると、具体例を交えながら重要性を説いた。



豊富な具体例を交えて
解説する富所氏

まちづくりの未来を考える

群馬県商店街(振)連合会

3月14日、桐生市・PLUS+アンカーにおいて、県内の青年商業者を対象にした研修会を開催。講師は株式会社まちづくり三原の統括マネージャー・泉太貴氏。

泉氏は、まちの担い手不足解消のために同社を設立した経緯や、地域外から担い手を確保するべく個人や企業に向けて行った取組みを語った。

さらに、域外に住みながらまちと継続的にかかわりを持つ「関係人口」の創出に向け、まちづくりにゲーム性を持たせ、WEBアプリを活用した取組みも紹介した。

翌日、同連合会では県のリノベーションまちづくり専門家派遣事業を活用。泉氏に桐生市中心市街地を実際に見て回ってもらい、商店街の活性化やまちづくりのアドバイスを受けた。



自身の思いや
経験を語る泉氏



講習会翌日、泉氏に桐生市街や店舗を
実際に見てもらい助言を受けた

子どもたちにもものづくりの魅力を 伝える工場見学ツアーを開催

館林金属工業団地(協)

3月27日、館林市・組合団地内において、工場見学ツアーを開催した。子どもたちにもものづくりの魅力を伝えるために市が企画したもので、市内の小学生と保護者を合わせた約30人が参加した。

参加者は最初に組合事務所において、スライドや動画で工業団地の50年以上続く歴史や特徴・組合員企業について紹介を受けた後、組合員の工場を見学した。

工場では溶接・プレス・レーザー加工など、金属部品を製造する工程を見学。参加者は、真剣に説明を聞きメモを取りながら、金属加工の技術を興味深く観察していた。

工場見学後、アルミ製の板に自分の名前を刻印してオリジナルのキーホルダーを作成するワークショップも行った。



アルミ板に刻印するワーク
ショップに取り組む参加者